

民間スポーツクラブが地域に果たす機能に関する研究 —地域活動と認知的ソーシャル・キャピタルによる検討—

A study on the role of a private sports club in the community

- Examination in local activities index and Cognitive social capital index -

1K06B159

指導教員 主査 原田宗彦先生

中司 雄基

副査 作野誠一先生

【研究目的】

本研究ではスポーツ参加者の中でも特に、民間スポーツクラブ会員を研究対象とし、「スポーツ参加者と地域活動」、「スポーツ参加者とソーシャル・キャピタル」という二つの関係性を探ることで、民間スポーツクラブが地域に果たす機能について明らかにすることを目的としている。

【研究方法】

西東京市内にある1スポーツクラブの会員170名を対象とし、2009年10月26日から10月31日の6日間で質問紙調査を実施した。有効回答数は156(有効回答率91.8%)である。本研究では、以下二つの仮説を設定し、その検証には、それぞれt検定を適用した。

仮説1：民間スポーツクラブの高頻度利用者と低頻度利用者の地域活動参加数を比較すれば、高頻度利用者の方が多い。

仮説2：民間スポーツクラブの高頻度利用者と低頻度利用者の認知的ソーシャル・キャピタル得点を比較すれば、高頻度利用者の方が高い。
なお、認知的ソーシャル・キャピタル得点に関しては、その指標である5群「信頼と連帯」、「集合的な行動と協働」、「情報とコミュニケーション」、「社会的凝集と包摂」、「自己効力感と行政への働きかけ」に属する各項目の点数を足すことで、5つの合成変数をつくった。認知的ソーシャル・キャピタルに関する質問項目は、小林(2003)の質問紙を参考に作成し、本研究にお

けるデータの加工および統計処理は、統計パッケージ(SPSS ver.17.0J for Windows)を用いて行った。

【結果・考察】

高頻度利用者と低頻度利用者の地域活動参加数の平均値を比較したところ、その値にほとんど開きはなく、統計的に有意な差も認められず、仮説1は支持されなかった。認知的ソーシャル・キャピタルの指標である5群全てにおいて高頻度利用者の方が高い平均値を示し、「信頼と連帯」、「集合的な行動と協働」の2群において、5%水準で統計的に有意な差がみられたことから、仮説2は支持された。

以上より民間スポーツクラブは、運動・スポーツ活動を通じ、「信頼感」「連帯感」といった人間の心理的側面に働きかけ、集合的な行動や協働を促すことで、地域における認知的ソーシャル・キャピタルの形成に寄与していると考えられる。しかしながら、クラブで醸成されたこれらの要素が実際の地域活動参加という態度的側面に影響を与える段階には至っていないといえるのではないだろうか。

【結論】

本研究の結果から、地域において顕在的には「運動機会を提供する場」として機能している民間スポーツクラブが、潜在的には「認知的ソーシャル・キャピタル醸成の場」として機能し

ているであろうことが明らかになった。ソーシャル・キャピタルには、人々の協調行動を活発にし、社会の効率性を高める役割が期待されている。すなわち間接的ではあるが、民間スポーツクラブは地域活性の一端を担う可能性があると考ええる。